

授業実践 【高等学校第3学年 国語科】
 単元名 『鉄を削る』（大修館 新編現代文）

1 単元の目標

- 職業に関する文章を読み、社会に生きる意義や、「働く」ことの意味を考える。
- 文章を読んで、構成、展開、要旨等を的確に捉える。
- 本文に出てくる語句の意味や用法、常用漢字の読みを的確に理解し、語彙を豊かにする。

2 指導計画（全4時間）

- 全体の文章構成、展開、要旨を捉え、初発の感想を書く …… 1時間
- 第1、第2段落の要旨を的確に捉える …… 1時間
- 第3段落の要旨を的確に捉え、本文を基に、「働く」ことの意味についての自分の考えを書く …… 2時間（本時2/2）

3 本時の目標

- 第3段落の要旨を的確に捉えることができる。
- 将来「働く」ことの意味についての自分自身の考えを明確にもつことができる。

4 「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援を取り入れた本時の授業

本時の学習は、第3段落の要旨を的確に捉えることと、本文の読解を通して「働く」ことについて生徒に考えさせることを学習のねらいとする。本文には、専門的な語句が出てくるため、適宜説明を加えたり電子黒板で動画や写真を提示したりして、内容を理解しやすくする支援が必要である。また、就職や進学等の進路を決定する学年であるため、将来自分が就く仕事と関連させて、「働く」ことの意味について生徒に考えさせたい。

本学級はおとなしい生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいる。しかし、授業中の教師の問い掛けに対して積極的に答える生徒は少なく、自分の意見に自信をもつことができない生徒が多い。そのため、あらかじめ自分の意見をまとめさせておいたり、他の生徒とのペアやグループ活動を取り入れたりして、生徒が自分の意見を明確にすることができるような支援を取り入れる必要がある。また、板書をノートに書き写す際に時間が掛かったり、文章を書くことに困難さを抱えたりする生徒もいる。

これまでの授業づくりの傾向をチェックシートの結果から見ると、「個人差への配慮」のポイントがその他の視点に比べると、低いことが明らかになった。そこで、生徒の実態及びこれまでの自身の授業づくりの傾向を踏まえて、次のような視点に応じた支援を取り入れる。

- 意識して取り入れる視点に応じた支援

【組立ての工夫】

- ・授業の導入で、学習の見通しをもつことができるように、本時の学習活動の流れを黒板に示す。
- ・自分の考えを明確にもったり、互いに考えを共有したりすることができるようにするためにペアでの話し合いを適宜取り入れる。

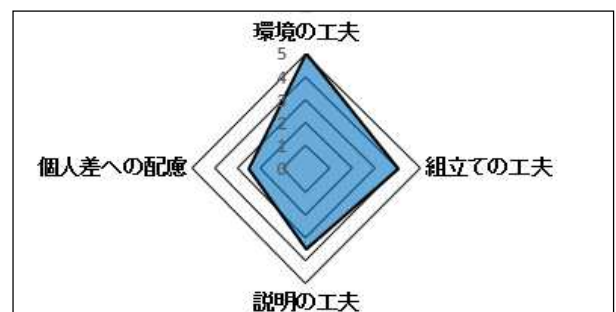


図 これまでの授業づくりの傾向

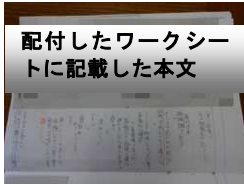

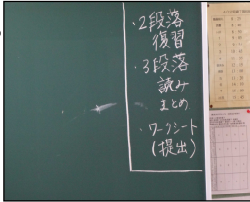

【説明の工夫】

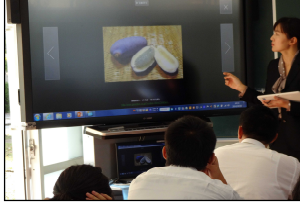

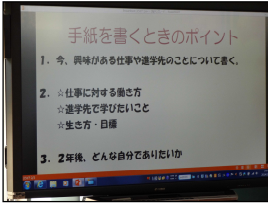
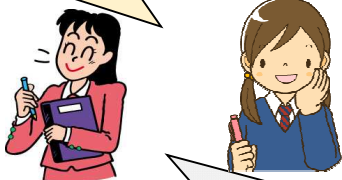



- ・電子黒板と学習用PCを連動させて、生徒のノートに貼ったワークシートと同じものを電子黒板で提示しながら説明する。
- ・生徒にとって分かりにくい語句は、電子黒板で写真を提示して説明する。

【個人差への配慮】

- ・注意を持続することが難しい生徒には、授業に集中できるように、生徒が応答しやすい問い掛けをする。
- ・漢字を読むことが苦手な生徒には、振り仮名を付けるように、個別に言葉掛けをしておく。
- ・書くことが苦手な生徒には、書く内容の要点を示したワークシートを用意して、生徒が必要に応じて選ぶことができるようにする。

5 授業の実際 (環 環境の工夫 組 組立ての工夫 説 説明の工夫 ◎ 個人差への配慮)

学習活動	「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援	取組の様子
〔授業前〕	<p>環 黒板には授業に必要な連絡事項だけを書く。</p> <p>環 毎時間統一した板書の仕方を決めておく。</p> <p>環 単元に入る前に、ノート1ページの上半分に本文を貼らせ、下半分に板書内容を書き写すように、ノートの使い方のルールを生徒に伝えておく。</p>  <p>配付したワークシートに記載した本文</p> <p>◎ 注意の持続が難しい生徒は、言葉掛けをしやすいように、教卓の近くの席にする。</p>	<p>ノートに本文を貼っていることで、前時のポイントの振り返りがしやすくなります。</p> 
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習の流れを確認する。	<p>組 授業の見通しがもてるように、本時の流れを黒板の右隅に示す。</p>  <p>説 前時までの本文を電子黒板に提示して、ポイントを示しながら振り返らせる。</p>	<p>授業の最初に今日の学習内容が黒板に書いてあったので、見通しをもって学習に取り組めるわ。</p> 
<p>学習課題 第3段落の内容を読み取り、「働く」ことの意味を考えよう</p>	<p>組 1～2文ごとに生徒を指名して、本文を読ませる活動を取り入れる。</p> <p>説 第3段落の内容が理解しやすくなるように、登場人物の行動に注意して読むように伝える。</p> <p>◎ 漢字を読むことが苦手な生徒には、振り仮名を付けるように、個別に言葉掛けをしておく。</p>	
2 第3段落を読み取る。 ・教科書を読みながら内容を理解する。		

	<p>説専門的な語句や難解な語句は、生徒に意味や用法等を問いながら黒板にまとめる。</p>	
<p>・登場人物の気持ちについて考える。</p> <p>・第3段落をまとめる。</p> <p>・本文全体を通して、読み取ったことを振り返る。</p> <p>3 2年後の自分に手紙を書く。</p>	<p>説生徒にとって分かりにくい語句は、想起しやすくなるように、電子黒板で写真を提示して説明する。</p>  <p>説ノートに書き写す箇所を分かりやすくするために、ノートに貼った本文と同じものを電子黒板で提示する。その際、電子黒板と学習用PCを連動させておく。</p> <p>説接続詞や指示語等、本文の内容を理解するためのポイントは、電子黒板に線や印を付けながら、強調して説明する。</p> <p>◎注意の持続が難しい生徒には、授業に集中できるように、生徒の実態を踏まえ、応答しやすい問い掛けをすることで、注意を引き付ける。</p> <p>組自力解決の後、生徒が自分の考えを明確にして学習に取り組むことができるように、ペアでの話し合いを行う。</p>  <p>説ペアで話し合ったことを全体に発表させる際には、言葉で自分の考えをまとめるのが得意な生徒に発言を促すことで、伝え方のモデルとなるようにする。生徒の発言を基に内容をまとめる。</p> <p>説電子黒板や板書を基に、本文全体の内容を振り返る。</p> <p>組「働く」ことの意味について考え、2年後の自分へ宛てた手紙を書く活動を取り入れる。</p> <p>説電子黒板で手紙を書くときのポイントと例文を示す。</p>  <p>◎書くことが苦手な生徒には、書く内容の要点を示したワークシートを配付する。</p>	<p>アケビの色と聞いてもイメージができなかったけど、電子黒板で写真を見るとよく分かり、書いてある内容にも興味が湧いてきたわ。</p>  <p>電子黒板に付けられた線や印を自分のノートに書き写すことで、ポイントの確認ができていました。</p> <p>語句の意味や漢字の読みなど、得意なことを質問されると、やる気が出るよ。</p>  <p>一人ではなかなか自分の発言に自信がもてないようでしたが、話し合わせることで発言しやすい雰囲気になり、考えを引き出すことができました。</p>  <p>手紙を書くときのポイントが電子黒板にあったから、自分への手紙が書きやすくなったな。</p> 
<p>4 次時の学習内容の見通しをもつ。</p>	<p>組次時に学習する単元の説明をすることで、見通しをもたせる。</p>	

6 本時の成果と課題

(1) 成果

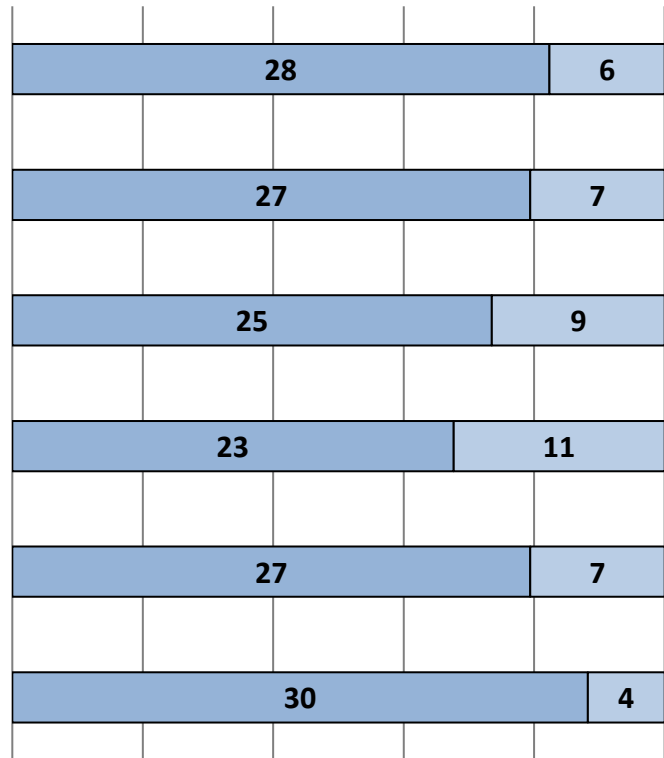
- チェックシートの結果から「個人差への配慮」のポイントが低かったため、注意の持続や書くことに困難を抱える生徒等、個々の生徒の苦手さに配慮して授業づくりを行ったことで、それぞれの生徒が授業に意欲的に参加している姿が見られた。また、苦手さだけではなく、生徒の実態を踏まえて、応答しやすい問い掛けをすることでも、学習意欲が高まる姿が見られた。授業後の生徒アンケートの結果より、「今日の授業は分かりやすかった」の質問項目に、個に応じた支援の必要な生徒を含め、全ての生徒が「大変分かりやすかった」または「どちらかというと分かりやすかった」と答えていた。
- ペアでの話し合いを取り入れたことで、生徒は注意を持続することができた。また、ペアで話し合うことで、自分の考えが表現しやすくなり、互いの考えを確認し合うこともできたため、生徒に自分の考えを明確にもたせることにもつながっていた。
- 生徒アンケートには、「電子黒板を使って説明されていたので、線や印を記入する場所が分かりやすかった」「電子黒板と学習用PCがうまく使われていたのでいつもより授業に対する意欲が高まった」等、多くの感想があった。言葉による指示や説明を補う支援として、電子黒板を活用した視覚的な情報の提示が、大変有効であると感じた。

(2) 課題

- チェックシートへの記入を通して、「個人差への配慮」に応じた支援を必要とする生徒の存在に気付くことができた。今後も、個々の生徒の苦手さの把握の仕方や苦手さに応じた教材の工夫や説明の仕方等について検討していく必要がある。
- 縦書きである国語の文章が電子黒板に適していないため、本文を提示するのに適した書式にする必要がある。また、電子黒板に提示する本文と同じ形式のワークシートをノートに貼らせるため、ワークシートの準備に多くの時間が掛かるという課題がある。

◇生徒アンケートの結果

視点	質問項目
環 組	今日の授業は分かりやすかった。
	先生の板書の仕方が毎時間統一されているので、学習内容が理解しやすかった。
	本時の学習活動が黒板に書いてあったので、見直しをもって学習に取り組むことができた。
	先生の説明を聞くだけではなく、自分で考えたり、友達と話し合ったりする活動があったので、最後まで集中して取り組むことができた。
	本文で出てくる工業用語や具体例について、電子黒板で写真を提示して説明されたので、イメージしやすかった。
	電子黒板を見ながら、ノートに貼った本文に線や印を書き込んだので、大事な言葉やポイントが分かりやすかった。

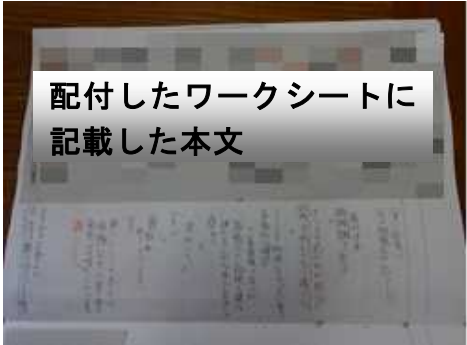



■はい □どちらかというとはい ■どちらかというといいえ ■いいえ
(人)


◇生徒の感想 (◎…個人差への配慮の対象となった生徒の感想)


- 大事な文章に線を引くことで、登場人物の行動をしっかりと理解することができた。
- 本文の要点を黒板に整理しながら説明されたので分かりやすかった。
- ノートに教科書の本文が書かれたワークシートを貼っていたので分かりやすかった。
- 先生の説明の速さや声のトーンはちょうどよかった。
- 電子黒板で画像を見たので、難しい表現も分かりやすかった。
- 電子黒板を使って重要な部分に線を引いたので、線を引く部分が分かりやすかった。
- 電子黒板と黒板を使ってあったので、説明の内容が分かりやすかった。
- 電子黒板とタブレットの両方を使った授業だったので、授業に対する意欲が高まった。
- 黒板に書かれた板書の内容を、しっかりノートに書き写すことができたのでよかった。
- 授業を通して、自分の将来について考えることができた。
- ◎電子黒板などが使われていたので、学習内容がよく分かった。
- ◎前の席だったので声がよく聞き取れた。黒板も見やすかった。
- ◎書く要点が書いてあるワークシートがあり、自分への手紙が書きやすかった。

◇具体的な支援と取組の様子

環境の工夫	ノートの使い方と板書の仕方のルールを決めておく
支援の意図	ノート1ページの上半分に本文を貼り、下半分に板書内容を書き写すことで、学習に参加しやすくする。
	<p>取組の様子</p> <p>ノートの使い方のルールを事前に生徒に伝えたり、1時間の授業での板書の量をノート1ページ分になるように、内容を精選したりした。そうすることで、生徒が書き写す量が少なくなり、教師や他の生徒の話を集中して聞いていた。また、板書は、黒板の右端に学習の流れ、中央に本文の内容の説明、左端に語句の意味というように、書く内容ごとに場所を決めた。</p> <p>ノートの使い方と板書の仕方のルールが生徒に定着しているため、自主的に授業に参加しやすくなっていた。生徒アンケートでも、「先生の板書の仕方が毎時間統一されているので、書かれている内容が理解しやすかった」という意見が多くあった。</p>

組立ての工夫	ペアでの話し合いを取り入れる
支援の意図	ペアでの話し合いを適宜取り入れることで、自分の考えを明確にもったり、互いに考えを共有したりすることができるようにする。
	<p>取組の様子</p> <p>これまでの授業では、口頭による説明を聞くだけでは生徒の注意が持続しないことが多かった。そこで、ペアでの話し合いを取り入れることで、隣の友達と登場人物の気持ちについて積極的に話し合う姿が見られるようになり、発言しやすい雰囲気をつくることができた。また、ペアで話し合うことで、自分の考えを明確にもったり、互いの考えを確認し合ったりすることもできた。そのため、これまでの授業では、声が小さく、自分の意見を発言することに自信がない様子が見られていた生徒も、指名された際に、自分の考えを明確に述べることができていた。</p>

説明の工夫	電子黒板と学習用P Cを活用して、本文の説明をする
支援の意図	電子黒板と学習用P Cを連動させて、生徒のノートに貼ったワークシートと同じものを電子黒板で提示しながら説明することで、説明の内容や、線や印を書き写す箇所を分かりやすくする。
	<p>取組の様子</p> <p>生徒がノートに貼ったワークシートと同じものを電子黒板に本文を提示することで、説明の内容が分かりやすくなった。また、ポイントが視覚的に分かりやすくなったため、生徒はノートに線や印を書き写しながら、学習活動に取り組んでいた。</p> <p>また、電子黒板と学習用P Cを連動させることで、視覚的補助教材を電子黒板で提示する際の画面の切り替えが容易にできた。その結果、生徒を待たせることが少なくなり、机間指導をする時間の確保にもつながった。そして、全ての生徒が、電子黒板や板書で示されたポイントをノートに書き写すことができていた。</p> <p>生徒アンケートの「電子黒板を使用していたので、大事な言葉やポイントが分かりやすかった」の質問項目に、「分かりやすかった」または「どちらかというと分かりやすかった」と全員が回答しており、電子黒板と学習用P Cの活用が、学習内容の理解を深めることに有効であったと感じた。</p>

個人差への配慮	生徒の実態を踏まえた問い掛けをする
支援の意図	生徒の応答しやすい問い掛けをすることで、意欲を喚起する。
	<p>取組の様子</p> <p>注意の持続は難しいが、語句の意味や表現について高い知識をもつ生徒に対して、文章中の語句の意味や漢字の読みについての質問を意図的に行った。生徒は、語句の意味について自信をもって答えることができ、その後、意欲的に授業に参加する姿が見られた。また、普段からよく発表をする生徒や、言葉で考えをまとめることが得意な生徒を初めに発言させるようにしたことで、発表することが苦手な生徒にとって、よいモデルとなった。</p>

<p>個人差への配慮</p>	<p>書くことが苦手な生徒には、書く内容の要点を示したワークシートを準備する</p>
<p>支援の意図</p>	<p>書く要点があらかじめ書かれたワークシートをヒントにすることで、書くことが苦手な生徒の学習活動への参加と理解を促す。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div data-bbox="159 436 399 784"> <p>～2年後の20歳になった私へ～</p> <p>今日は10月__日__曜日、私は今__歳。</p> <p>卒業後の私は_____予定です。</p> <p>進路についてはいろいろ悩んだけど、_____として、</p> <p>_____</p> <p>を決意しました。</p> <p>2年後の私へ。あなたは今、_____として</p> <p>_____?</p> <p>いろんな失敗も、苦労もあると思うけれど、_____下さい。</p> <p>()歳の私より 2年後の私へ</p> </div> <p style="text-align: center;">個別用</p> </div> <div style="width: 45%;"> <div data-bbox="430 436 670 784"> <p>～2年後の20歳になった私へ～</p> <p>今日は10月__日__曜日、私は今__歳。</p> <p>卒業後の私は_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____下さい。</p> <p>()歳の私より 2年後の私へ</p> </div> <p style="text-align: center;">全員用</p> </div> </div> <div data-bbox="710 392 1452 873" style="margin-top: 20px;"> <p>取組の様子</p> <p>書くことが苦手な生徒のために、書く内容の要点を示した個別用ワークシートを用意した。2年後の自分へ手紙を書く活動では、最初に、全ての生徒に全員用ワークシートを配付した。その際、書く要点があらかじめ書かれた個別用ワークシートを用意していることを伝えた。普段の授業の様子から書くことが苦手だと考えられる生徒には、個別用ワークシートを配付した。生徒は、個別用ワークシートと、電子黒板に提示した手紙を書くときのポイントをヒントにしながら、全員用ワークシートで提出することができた。</p> </div>	